

第2学年 社会科学習指導案(地理的分野)

日時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅳ
 学級 2年3組 男子18名 女子17名 計35名
 授業者 早坂 真

1 単元名 第3章日本の諸地域 第4節中部地方 自然環境を生かした各地の農業

2 単元について

(1) 教材について

中学校学習指導要領解説・社会編では地域的特色は様々な地域が結びつき、影響を及ぼし合っていることに着目させ、地域的特色を中核となる地理的事象とその他の事象との関連から捉え、その成り立ちを考察することが大切であるとしている。

本単元では「産業を中核とした考察」を取り上げ、中部地方の各地域の立地や動向等とその関連性を通して、中部地方の地域的特色を理解させたい。

小学校では5年生時に野菜栽培・果樹栽培を具体的事例として食料生産の工夫と努力等を学習している。本単元ではこの事も想起させながら、学習を進めていきたい。

(2) 生徒について

生徒は落ち着いて社会科の学習に取り組むが、テスト対策の一環として用語等の暗記をすることが中心で資料から考察したり、自分の言葉で説明することを不得手としている。

本単元では、小学校を含めた既習事項や資料の読み取りを通して、中部地方の地域的特色を捉えさせ、自分の言葉で説明させたい。

(3) 指導にあたって

本単元では地域的特色となる産業に関する写真や地図、統計資料を活用し、それぞれを関連づけて考察を深めてさせ、その内容を記述、発表することで振り返りとしていきたい。

また、グループ学習等を通して、生徒一人ひとりが学びあいながら「見通す」活動や「振り返る」活動を取り上げていきたい。

3 単元の目標

- 産業を中核とした考察を基に中部地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。
【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 地域的特色を産業を中核とした考察を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。
【社会的な思考・判断・表現】
- 資料を読み取り地域的特色についてまとめることができる。
【資料活用の技能】
- 産業を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、その知識が身についている。
【知識・理解】

4 指導計画 (第3章日本の諸地域

第4節中部地方 自然環境を生かした各地の農業:5時間扱い 本時4/5)

次	時	学習内容
一	1	中部地方の生活舞台
二	1	中部地方の人々の営み
三	1	工業の発展と地域の変化
四	1	自然環境を生かした各地の農業 (本時)
五	1	世界と結びつく中部地方

5 本時の指導について

(1) 目標

中央高地で高原野菜や果樹栽培が盛んな理由を気候や地形、交通網の発達を関連づけて説明できる。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手立て
社会的な思考判断表現	・中央高地で高原野菜や果樹栽培が盛んな理由を気候や地形、交通網の3つの視点で記述している。	・机間巡視による個別支援やグループ学習を通して学習活動に参加できるようにする。 ・まとめを書く際に、板書したキーワードを用いる。

(3) 指導の構想

- ・「振り返る」活動については板書事項を参考としながら記述し、発表させることで生徒全員が確認しあう活動を取り入れたい。
- ・「見通す」活動については資料提示の仕方を工夫しながら、単元に対する学習意欲を高め、課題設定を丁寧に行いたい。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	形 態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆「見通す・振り返る」活動
導 入 7分	1 前時の学習を想起する	全	☆既習事項の確認を発問によって行う。
	2 レタス・白菜等の野菜の地域別生産量、果樹の地域別生産量について知る		○発表により長野県が上位であることを確認する
展 開 33分	3 学習課題の確認	中央高地でレタス・白菜や果樹栽培が多いのはなぜだろうか。	
	4 中央高地でレタスの栽培が多い理由を予想する。	ペ	○予想の理由も含め発表させる。 ・土の質がよい。 ・ファースフード店で人気だから。
	5 レタスの出荷が夏に多い理由を資料から考える。 (1) 気候から考える。 長野県と茨城県の気候の比較をする。	ペ	○松本市の雨温図から気候の特色を発表させる。 ●発言 ・冬は寒い ・夏はあまり暑くない ・雨が少ない
	(2) 地形からの特色を考える。 長野県と茨城県の地図を比較する。	個	○高原野菜の盛んな地域を地図で確認させる。
	(3) 交通機関から考える。	個	○高速道路の地図を提示する。
	6 果樹栽培が盛んなところはどんな地形をしているか。	班	○果樹栽培の盛んな地域を地図で確認させる。 ・山間地である。山と平地の境である。扇状地である。 ○交通機関との関連を考えさせる。 ●発言 ・運びやすい(高原野菜と同じ) ・観光果樹園
	7 輸送方法の工夫等について考察する。	個	○野菜真空予冷施設の写真を提示し出荷の工夫を確認する。 ○保冷トラックの写真も提示する
	8 産地間競争について知る。	ペ	○盛岡市の雨温図を提示し、松本市と共通点があることを確認する。 ○岩手県と長野県の地図で地形も共通点がある。
終 末 10分	9 まとめ	個	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・高原野菜は夏に涼しい気候を生かした抑制栽培に適している。 ・果樹栽培は水はけの良い扇状地が多くあり、栽培に適している。 ・東京や名古屋等の大消費地と高速道路で結ばれ、出荷がしやすい。 ・課題としては産地間競争があげられる。 </div>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・農業が盛んになるためには気候の他にも地形や交通機関などの条件が必要ということがわかった。 ・気候や地形、交通機関の他の条件はあるのだろうか。 ・岩手県が長野県に競争で勝つための方法はあるのか。 </div>
	10 本時の振り返り	個	